

25 『脾胃論』に記載された述語の分類に関する研究

李 丙 旭²⁾, 金 明 姫¹⁾, 金 恩 瑕¹⁾¹⁾ 韓国 大邱韓医大学校 大学院原典医史学教室²⁾ 韓国 釜山大学校韓医学専門大学院人文社会医学部

IT技術を利用した情報化は世界的に盛んになっている。現在の世界情報化技術の水準を見ると、「Semantic Web」という標準と技術が開発され、情報の探索や意思決定を人間ではなくコンピューターがする段階となった。特に医療分野は情報の量が多く複雑なので、一番高い水準の情報管理技術が必要である。そのため「Semantic Web」を具現する核心技術であるオントロジー（Ontology）研究は医療分野を中心と盛んに行われている。

韓医学分野の情報化に対する研究は韓医学研究に客観性を付与し、また体系的な研究の基盤を用意してくれる方法の一つとして高く評価されている。このような傾向は最近、韓医学関連の情報化研究にも反映され、オントロジー技術を利用した韓医学情報化研究が進行している。韓医学オントロジーを駆使するためには、韓医学で使われている語彙の解釈や意味の限界を決めることが重要である。そのため、韓医学的知識を叙述する過程の中で、概念と概念の関係を叙述するために「述語体系」が必要であると考えられる。最近、韓医学でも韓国語の述語に当たる領域をUMLSの「Semantic Type」の中でEvent領域の分類を借用した分類が試されている。しかしこのような分類は、韓医学の弁証論治の特性を反映した効率的な分類にはならなかった。そこで本論文では、比較的に内容が短く、先行研究が進行している李東垣の『脾胃論』に記載されている内容に基づいて述語を抽出し、研究を進行する。

研究方法は次のようである。まず『脾胃論』から述語の役割をしている漢字を抽出して、文脈に符合するように韓国語に翻訳する。韓国語の中で概念が類似の用語を一つのグループとして分類して、代表的な述語表現を選定する。そして代表的な述語を、別途の分類体系を作って分類してみる。抽出された用語の数が少なくないので、単純なテキスト形式で用語を分類して整理するのは、非常に大変であった。したがって用語の分類を視覚的に手軽に確認することができ、用語に関する情報も修正できるプログラムが必要であった。そのために韓医学用語の管理システム構築研究の結果を利用し、代表語・同義語の表記体系を支援して、CUIを中心とする説明や例文情報を管理して分類体系も管理できるシステムを構成した。プログラムは現在<http://164.125.206.43/Soa>から確認できる。用語の選定と分類のためにSQL Server 2005を基盤とし、用語管理システムを駆使して試験的に活用してみた。

韓医学の中で、具体的な実体を持たず韓医学の観念上だけに存在していた観念の実体に対する述語や、具体的な実体を持っている実体に対する述語、人間の感覚と精神活動によって決められる述語、時間の流れを説明する述語、実体と現象間の関係を叙述する述語など、大きく分類して6段階、105個の分類名で述語を分類した。これにより韓医学の弁証・症状・治法・効能と係わる用語の正確な意味を、より明確に区分することができた。

本研究で分類した生成消滅と空間変化に関する内容は、韓医学での弁証・症状・治法・効能と係わる用語の正確な意味を定めるのに重要な役割を果たすと考えられる。もちろん生成消滅及び位置変化の促進と抑制は、虚実の概念と補瀉の概念を区別して活用するのに役に立つし、方向情報を持っている位置変化の述語は症状と治法の表現に活用できる。